



年頭あいさつ

新たな旅立ちのために

光町長 齊藤 讓

新年明けましておめでとうございます。
町民の皆様には、希望に満ちた輝かしい二〇〇四年の新春を、ご家族お揃いで健やかに迎えのことと心からお喜び申し上げます。

皆様には、町政に対する暖かいご理解と絶大なるご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。お蔭様で、町づくりも所期の目標に向かって順調に進展いたしております。私も就任以来はじめての新年を迎え、新たな気持ちをもって、町政の運営にあたる決意でありますので、引き続きご支援のほどよろしくお願い申し上げます。ところで、今年の経済は輸出の復調と企業設備投資が牽引役となり、緩やかに回復という希望的な観測がなされております。今年こそ予測どおり景気回復の元年になることを心から願っております。

さて、我がふるさと光町は昭和二十九年に四村が合併し、今年で町制施行五十周年を迎えます。また、この節目の年は市町村合併を決定する年でもあります。町制施行五十年が、新たな旅立ちを決定する年と重なったこの巡り合わせに、改めて深い因縁と歴史の重さを感じます。同時にまた、光町の将来が私の決断に大きくかかっている責任の重さも痛感いたします。

今、地方自治体における最大の課題と注目点は、市町村合併と地方分権のための三位一体の改革であります。特に三位一体の改革が平成十六年度国家予算のなかでどこまで取り扱われる

か注意をはらっていかねばならないと考えております。このような状況下における今期町政の使命は、新市の立ち上げと光町の締め括り、総仕上げにあります。この為には、長期展望のうねにたつて、住民福祉の向上を唯一の指標とし、効率的な行政組織体を作りあげることが最も重要であります。

私は、限られた時間の中でより多くの町民の皆様の意見を施策に反映させるべく、光町まちづくり百人会議の設置をはじめ、各種合会等を通じて民意をできる限り施策反映させる体制を整え、活動を展開して参りました。

地方自治の原点は、自らが考え、自らが実践することであり、他との比較横並び、物真似では決してありません。この原点を見失い市町村合併のスケールメリットを追い求めれば、必ず空洞化の危険を招くことになると思います。私は、このような思いを胸に刻み、輝く未来に向け市町村合併の答えを出すことをここに約束いたします。

また、合併問題以外にも、町産業振興、教育・文化行政の充実、福祉施策の充実、安全で郷土愛の高いまちづくりなど、各種施策の実現に向け、全力を傾注し積極的に取り組んで参ります。

重ねて、皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げます。最後に、この一年が、光町と町民の皆様にとって佳き年でありますよう心からお祈りし、新年のごあいさついたします。